

Weekly Michael's News

＜今週の聖句＞

「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。『年を重ねることに喜びはない』と言う年齢にならないうちに。」

2016年11月14日発行 No.21

(旧約聖書 コヘレトの言葉 第12章1節)

＜向洋中学から元気なお客様!?トライやるウィークで中学生4名がチャペルで職業体験!!＞

先週、キリスト教センターはフレッシュなお客様を迎えました!! 神戸市立向洋中学の2年生4名が、「トライやるウィーク」(職場体験)で、神戸国際大学を訪れ様々な業務を担当されたのです。簡単なガイダンスを経て、まず取り組んだのがチャペルの掃除でしたが、ここでは驚くほど丁寧に椅子や説教台等をピカピカにしてくれました!! その後も、礼拝で使用する日報の折り込み作業や、朝のあいさつ&クリーンアップ運動にも参加しました。特筆すべきは昼礼拝のサーバー(補助奉仕)も体験!! 白いキャソックに身を包み、超緊張しながらでしたが、聖書朗読やロウソクの消火など礼拝の中の重要な役割を堂々とした姿勢でこなし、非常に充実した職場体験となりました!! 感想を聞いてみると、「日常生活の中で気付かない所にキリスト教があって驚きました。」「自分で時間割を決められる所が面白いなと思いました。」「大学のゆったりした雰囲気良かったです。」「図書館とか、本がたくさんあってスゴイなと思いました。」といった答えが返ってきました。中学生にとって、触れる機会の少ない大学の雰囲気やキリスト教だっと思いましたが、この機会を通して視野や世界が広がれば嬉しいです。同じ六甲アイランドにある学び舎、これからも様々な場面で関係を持てればと思います。今回は、本当にお疲れさまでした!! また遊びに来てね~(^o^)/”



心を込めて丁寧に掃除



石原主務のリードで学内を探索



日報40部をあっという間に折込む



パイプオルガンに初めてタッチ!!



堂々とした声で聖書を朗読



礼拝終了を示すロウソクの消灯

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

11月7日(月) 前田 次郎(理事長)

テーマ:「心で聞こう 真の声を」

旧約聖書の「箴言」は、生きる知恵をこの世に伝え、理性の助けにより人生の重大な問題を解く力を与える書だ。己の利益や金を求める浅はかな知恵ではなく、偉大な存在である神を畏敬する事から始まる知恵でもある。神奈川で長く宣教され77歳で天に召されたグスタフ神父は、自分の父を振り返りながら結婚式のスピーチで面白い言葉を残している。「恐ろしい物を示す地震・雷・火事・親父という言葉は、『自信・神なり・家事・親父』であり、家庭内の揺るぎない父親の存在を示している。」この父の愛に表されるような、大きな神の愛を覚えつつ歩みたい。

11月8日(火)は、入試のため礼拝は行われませんでした。

11月9日(水) 下田 繁則(経済学部長)

テーマ:「電車内での風景」

少し前に、東急電鉄が作成した車内マナー向上ポスターが話題になった。他にも鉄道関係各社は混雑する車内で皆が気持ち良く利用できるようなマナーの啓発に力を入れている。アンケート調査によると3200件を超える声の中で、実に97%がマナー違反による不快さを経験していた。例えば、足を広げて座る、優先座席を譲らない、リュックを押しつけるetc…。たくさんの人が乗り合う混雑した車内では、マナーを守るのが煩わしくなるのかもしれないが、結果を見ながら思ったのが「小さな一言の大切さ」だ。「ちょっとすみません」の一言があれば防げる衝突もあるのではないだろうか? このような小さな心遣いが車内を、世界を明るくするように思う。

11月10日(木) 中井 久純(リハビリテーション学部)

テーマ:「神戸マラソンボランティアについて」

10日後の11月20日(日)に神戸マラソンが行われる。私は、リハビリテーション学部の1年生と陸上部員合わせて20名で参加する予定だ。参加と言っても走るのではない。このイベントを無事成功させるため、ボランティアとして運営に関わる。その仕事は多岐に亘る。選手のケア、ハイタッチなどの応援、バナナや水などの補給etc…。神戸大橋の手前、35~38kmが活動地点となる。出場して、実際に走る選手だけでなく、様々な形で大会をサポートする者の働きも覚えていただければ嬉しい。



11月11日(金) 中原 康貴(チャプレン)

テーマ:「宝物に縛られる」

私たちは生きていく中で多くの貴い思い出や宝物を手にしていく。そして、それらはまさしく神様からの贈り物に他ならない。しかし、それらに固執していると、私たちはいつの間にか「それらなしには生きていけない」とまで考えるようになり、自由を奪われる。聖書には「富は天に積みなさい」とある。それはまず、地上の富にしがみつかないということ。また、この世において自分の大切な宝を失うことを恐れる必要はないということである。そして、それらはこの地上で多くの人々と分かち合うことによって、より多くの恵みをもたらすのである。自らの宝物に感謝しつつも、それらに縛られることなく、有意義に使おう。

(文責:野間 光顕)